



いいで町

192号

議会だより

町制施行65周年記念事業

子ども議会開催



鋭い発想で質問する子どもたち

12月定例議会



携帯・スマホからアクセス!

12月定例会	学校設置条例可決	P2~3
政策提言	JR米坂線の早期復旧	P4
一般質問	町議会初 全議員一般質問	P5~9
町制65周年記念事業	子ども議会	P14
議員視察研修	蔵王町議会など	P15

で可決し の森学園」に決定

12月 定例会

**一般会計補正予算(第8号)は、
5,626万円を追加し
総額85億9,991万円に**

主な歳入

①貸工場使用料	849.9万円
②社会保障・税番号制度システム整備費補助金 (国庫補助)	210万円
③新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 (国庫補助)	339万円
④保育対策総合支援事業費補助金(国庫補助)	171万円
⑤農業水路等長寿命化・防災減災(県補助)	500万円
⑥中学校可搬式冷房機導入支援事業費補助金(県補助)	100万円
⑦貸工場施設管理費使用者負担金(雑入)	295.5万円

主な歳出

●住民記録システム改修委託料	210万円(歳入②)
●避難行動要支援者台帳管理システム導入委託料	374万円(歳入③)
●保育所等におけるICT化推進等事業委託料	453万円(歳入④)
●ため池廃止に係る設計委託料	500万円(歳入⑤)
●貸工場補修工事請負費	121万円(歳入⑦)
●可搬式冷暖房器に係る備品購入費	220万円(歳入⑥)

概要

令和5年12月定例会は、12月7日から15日までの9日間の会期で開催されました。一般質問は議長以外の9名が、2日間にわたり町政をただしました。第6日目の議案審議では条例関係が7件、一般会計補正予算(第7号)を含む一般会計補正予算が6件、公の施設の指定管理について等を審査し、原案のとおり可決しました。

第7日日以降は、総務文教・産業厚生各常任委員会において所管事務調査を行い、最終日には、追加提案された一般会計補正予算(第8号)などを原案通り可決し、閉会しました。



子ども議員10人による鋭い発想の質問ばかりで、町長も感心しながらの答弁でした。

表紙の説明 子ども議会開催

町制施行65周年記念事業として、11月30日に子ども議会を開催いたしました。

事前に各学校に議員が赴き、議会の仕組みや一般質問について説明を行いました。当日は各小学校から2名ずつ、中学校からは議長を含め3名の議員が、ひとり13分間の一般質問を行いました。

学校設置条例を賛成多数 「いいで

議案審議の主な内容と質疑

◆飯豊町立学校設置 条例の一部を改正 する条例の制定

義務教育学校の名称及び位置は、次の掲げるとおりとする。

・名称
飯豊町立
いいでの森学園

・位置

椿1862番地
萩生677番地
小白川3360番地

・提案理由

義務教育学校が令和8年4月開校することに伴い、義務教育学校の名称及び位置について規定するため、一部改正を提案するものである。



5年生からは中学舎で学ぶことになる

【質疑】

・校名公募時の多数ではない名称なので、住民への丁寧な説明が必要ではないか。組回覧や町ホームページだけでの周知では不十分で、反対の声がある。
・反対の声がどの程度か、図りかねる。「いい校名だ」との声もある。

【採決】

・賛成5

横山清彦議員
遠藤純雄議員
屋嶋雅一議員
遠藤芳昭議員
高橋亨一議員
・反対4
島貫寿雄議員
高橋 勝議員
舟山政男議員
松山和好議員

賛成多数で可決

◆職員定数条例の一部を改正する条例の制定

●下水道も公営企業に
遠藤(芳)議員 次年度から下水道事業が公営企業法適用となり、職員定数が6人となるが、現在と業務量の変化は、
地域整備課長 現行4名であるが、企業法適用でどれほどになるか現時点で予想は難しい。

◆補正予算

●負担金の追加理由は
遠藤(純)議員 廃棄物処理事業において、置広負担金1434万円の追加分の理由は。
住民課長 昨年8月豪雨での災害ゴミの処分料である。

●定住奨励について

横山議員 飯豊で幸せになる事業において、定住奨励300万円の追加分の内容は。
企画課長 当初予算は見込みでの計上であったため、住宅奨励金の不足分が発生した。そのため追加分である。

●システムの内容は

屋嶋議員 避難行動要支援者台帳管理システム導入業務委託料374万円の内容は。
健康福祉課長 要支援者名簿のデータ化を行い、ハザードマップ上に反映させ災害時に対応できるシステムである。

る。

●補修工事の内容は

舟山議員 貸工場の補修工事請負費121万円の内容は。
産業連携室主任 火災報知器、エレベーター部品、床面クリーニング、雪害補修のための設計、カビ対策が主な内容である。

●ため池の廃止理由は

高橋(亨)議員 設計委託料500万円のため池の廃止理由と場所は。
農林振興課長 手ノ子萩地区のため池。昨年の豪雨で決壊・破損している現況で、地元と協議のうえ廃止となったための事業である。

●ICT化推進事業とは

高橋(勝)議員 保育所におけるICT化推進事業委託料453万円の内容は。
総務教育課長 タブレット・端末の導入による、保育業務支援システムである。

町に対し政策提言

JR米坂線復旧

若者と教育政策の充実を

政策提言の趣旨

飯豊町議会では町民や町内団体などからのご意見等をまとめ、町長に対して政策提言をしてきました。本年度も、昨年8月の豪雨災害に伴うJR米坂線復旧や人口減少、特に若者の町外流出が著しい状況を克服するため、政策提言を12月定例会の場で町長に提出しました。今後は、提言が町の政策に反映されるよう、その検証をしていきます。

1 JR米坂線の早期復旧と利用促進策を

昨年8月豪雨災害から不通で、通学や観光に大きな影響がある。早期復旧のための行動と利用促進策を。

- 1 復旧復興にむけた確かな方向性を早期に明確にするようJR・国及び関係自治体に働きかけること。
- 2 沿線自治体による米坂線利用促進策とJR沿線の活性化策を示すこと。
- 3 観光客が米坂線不通の影響を受けないよう、町のPR・情報をこれまで以上に発信し、新たな観光資源の発掘に努め農業・商工業の発展に繋げること。

2 義務教育学校設置に伴う教育環境の充実を

令和8年度義務教育学校開校に伴う新たな教育課題について対応を。

- 1 義務教育学校への移行により、地域と児童のつながりが疎遠になることが危惧される。児童生徒の社会コミュニケーション能力を育むため「学校・家庭・地域の連携協働推進事業」に積極的に取り組むこと。

3 町公共施設全体面積の縮減に努力を

人口減少による将来コストの負担が増加するため、町の公共施設については全体面積の縮減に努めること。

- 1 「飯豊町遊休公共施設等の利活用に関する基本方針」により、老朽化し今後長期の活用が見込まれない施設については廃止縮小に努めること。
- 2 将来まちづくりに必要不可欠な施設は再利用に努め、特に閉校後の校舎利用はまちづくりや町民生活の向上のため、丁寧な説明と有効な活用に努めること。

4 各層(各世代)の住宅・住環境の整備を

人口減少や少子高齢化による高齢者の一人暮らしや空き家の増加への対応は急務である。このため「飯豊町住生活基本計画」に基づき、住宅・住環境政策に取り組むこと。

- 1 若者や子育て世代の流出防止に向けた住宅「戸建て・集合住宅」を整備すること。
- 2 高齢者住環境施策として、特に冬の除雪支援における除雪の担い手不足に対してその確保のための対策を講じること。



菅野議長より後藤町長に提言書を手渡す

高橋 勝 議員 5ページ下段	雪国での暮らしを支える仕組みの構築を
遠藤 芳昭 議員 6ページ上段	空き校舎を 歴史民俗資料展示施設に
屋嶋 雅一 議員 6ページ下段	庁舎・公共施設へのLED照明の導入を
舟山 政男 議員 7ページ上段	・米生産組合の現状と将来は ・歴史的価値あるものの保護は
高橋 亨一 議員 7ページ下段	・「LGBT法」の取り組みは ・農業の将来的な展望は
遠藤 純雄 議員 8ページ上段	未来の農業振興、限界集落の対応は
横山 清彦 議員 8ページ下段	・高齢者の独居生活支援は ・鳥獣被害対策は
島貫 寿雄 議員 9ページ上段	貸工場内定企業の整合性は
松山 和好 議員 9ページ下段	電池バレー関連事業を総括・反省すべき

一般質問コーナーは質問した議員が自らの責任で執筆しています。

一般質問

町政を問う

一般質問とは、定例会において各議員が住民の代表として行財政全般において町当局の考え方や疑問をたずねることです。



録画中継を見ることができます

議会初 一般質問に全議員が登場

雪国での暮らしを支える 仕組みの構築を

町長 2団体で有償ボランティアのモデル事業を実施へ

共助組織の担い手確保策は

質問 現在の除雪体制において、担い手確保が急務となっている。今年度の担い手確保策の取組みは。

町長 今年度はモデル団体として、手ノ子地区と中津川地区の2団体に有償ボランティアとして活動していく。

再質問 利用者の負担増になつては困るが。健康福祉課長 65歳以上の高齢者世帯への除雪支援の活用で、負担額の増加にはならない。



早期の担い手不足の解消を

計画推進における地区まちづくりセンターの役割は

質問 地区別計画推進事業の決算額は、地区



高橋 勝 議員

間で年100万円もの利用差がある。地区別計画の推進には、地区協議会と地区まちづくりセンターの関わりを明確にし、進捗管理を行う必要があるのではないかと。

町長 地区別計画の推進と進捗管理は、各地区協議会で行っていたこととなっており、地区まちづくりセンターは、協議会と連携して行うこととしたい。

※他に、豪雨災害調査研究報告（森林の管理保全、砂防と治山施設の再整備）について質問。

空き校舎を 歴史民俗資料展示施設に

町長

大切な施設 実現したい

貴重な歴史資料展
示施設が必要

質問 町の歴史的民族

資料等の保管はどのよう
になつていくか。これ
までに教育委員会が
取り組んできた数々の
資料の展示場所はあ
すのままでもいいのか。
新たな展示施設が必要
ではないか？

教育長 これまで専門

職員を配置して、町の
歴史文化的や民族資料
等については相当整備
してきた。現在はあ
すに展示している。

その他民族資料は、
7カ所に分散して保管

している。出来るだけ
早く整備していきたい。

閉校になる校舎を
歴史民俗資料館に

質問 他の市町では遊

休施設を資料館等に整
備がすすんでいる。

飯豊町でも

令和8年4月
から閉校にな
る学校を、歴
史民俗資料館
として町の
農村文化を発
信してはどうか？

町長 大変重

要な課題であ
り、最有力候



他町の歴史民俗資料展示

遠藤 芳昭 議員



補として是非検討して
いきたい。閉校となる
学校の再利用について
は現在義務教育学校検
討委員会と地域に委ね
ているが、町民が交流
できる空間も併せて
検討してみたい。

庁舎・公共施設への LED照明導入を

町長

効果は期待され、重要な取り
組みのため、段階的に導入

LED照明導入を

質問 脱炭素に取り組

む本町にとつて、目標
達成に大きく効果があ
り、省エネや経費削減
にも繋がるLED照
明の導入を庁舎や公共
施設に必要ではないか。

町長 重要な取り組み

であると考え段階的な
LED照明導入を検討
する。

総務課長 今後、積算

を行いながらLED照
明の導入を進めていく。
ただ、来年度の導入は
難しい。

森林整備に
専門員の配置を

質問 昨年8月の集中

豪雨により森林が崩壊
したのは、森林整備さ
れていないことが大き
な要因の一

つである

と

の報告があ

った。今後、

町の森林管

理や整備を

より強力に

進める必要

があり、そ

のためには

森林に詳し
い専門員の



崩壊した森林

屋嶋 雅一 議員



配置が必要ではないか。
森林振興課長 今後、
森林の整備を進めてい
く上で、現在の飯豊町
には専門員が必要であ
る。検討していきたい。

米生産組合の現状と将来は 歴史的価値あるものの 保護は

町長

・地域計画策定で協議する
・「飯豊遺産」として保存する

コメを生産する農家で組織した生産組合が減少している

質問

生産組合が減少している。原因として農家の高齢化や離農がある。また、組合の事務的作業の増加もある。現状と将来をどのように考えるか？

町長 生産組合や地域農業を支える組織の継

続が困難な状況も出ている。今後、農業の衰退だけでなく町そのものの衰退にもつながることが懸念される。現在策定中の地域計画で農業者や、地域住民、

関係機関と検討・協議する。

家屋・土蔵の取り壊しにより新たな価値あるものの保護等は

質問

人口減少・高齢化に伴い家屋の取り壊しに至ることが増える予想される。その中に新たに発見される歴史的価値あるものの保護についての考え方は？

教育長 令和2

年3月に策定した「飯豊町歴史文化基本構想」



令和4年8月水害前の天養寺観音堂



ふなやま まさお 議員

で、文化財の指定・未指定を問わず「飯豊遺産」と位置づけ、保存管理するとしている。歴史的資料の収集整理その保存・展示などを含め、また、活用を引き続き検討する。

「LGBT法」の取り組みは 農業の将来的な展望は

町長

性の多様な理解と促進を図る
地域計画を策定して

「LGBT法」の取り組み

質問

「性的及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」通称「LGBT法」が公布され、性的少数者に対して理解を広めるため、国や地方公共団体・学校等が取り組む役割が、公布された。

町と学校の取り組みと対応は。

町長 多様な性的思考・性的自認に関する

理解促進を進め、人権が尊重される社会の実現に取り組んで行く。

「いのちの学習」でいじめ防止も指導

質問

学校現場で児童生徒に、不平等・支障のないよう、性に関する指導も行っている。また、いじめ防止は教育活動で人権意識指導も行い「いのちの学習」で、生命の尊さ・思いやる力等を指導する。

農業の未来と処方箋は

質問

農業の環境は年々悪化し厳しさが増している。特に高齢者が86%を占め、急速な離農の増加と農家数・農作物の減少で自給率の低下にもなる。本町の農業の未来と処方箋を見出すには。

町長 農業経営基盤促進法の「地域計画」で

農家・地域住民とともに10年後の農地利用を育成し、農業の担い手育成確保や農地の活用を進めていく。将来は、農家に対する所得補償制度導入の検討が必要であると考える。



たかはし きょういち 議員

※「LGBT」とは頭の文字をとったもの
L (レズビアン) 女性の同性愛者
G (ゲイ) 男性の同性愛者
B (バイセクシュアル) 両性愛者
T (トランスジェンダー) 心の性と身体の性が一致していない人

未来の農業振興、 限界集落の対応は

町長

輸入依存から脱却
「地域計画」策定

未来の農業振興 (水田・林業)は

質問 これまでの農業政策を総括し、現在の肥料高騰対策の支援は。今後策定する「地域計画」に盛り込む内容と「生産振興助成金」との関連はいかに。林業振興はどのようにしていくか。

町長 輸入依存から脱却し「地産地消」を進めたい。米価と経費の差額を補償できる施策ができるよう訴えていきたい。農業資材・肥料の支援は4年度行った。今

後も動向を注視して対応したい。「地域計画」策定については、農業者のみならず若者や女性など地域の関係者が一体となって話し合い

町営分収造林事業はこれから主伐期を迎える。ブランド杉については振興できるか検討する。

限界集落を守る 対応は

質問 限界集落を守る対応は。中津川地域の生活を守るために具体的な対策は。

町長 限界集落は14集



遠藤 純雄 議員

落ある。まちづくりセンターを中心に持続可能な地域づくりに取り組んでいきたい。中津川地区は、中津川むらづくり協議会で地域課題を検討し、地域おこし協力隊制度などを活用し、様々な課題に取り組みでいきたい。



地域・集落を守る！

高齢者の独居生活支援は 鳥獣被害対策は

町長

多くの高齢者事業がある
電気柵や草刈り等を実施

独居高齢者支援

質問 高齢者に配慮したまちづくりの施策は。

町長 一人暮らしの高齢者への見守り支援、地域の居場所づくり、除雪対策に力を注いでいる。

具体的な取り組みは

質問 高齢者のための具体的な取り組みは。

町長 「安心生きがい訪問事業」でヘルパーが月2回訪問・生活の様子確認・体調の確認を行い相談に応じている。「緊急通報システム」は、体調不良等の

鳥獣被害対策

質問 鳥獣による食害や人的被害への予防策は。

町長 追い払い活動に対する花火などの資材購入助成、電気柵など侵入防止柵の購入補助、里山の景観保全対策として人里の生活圏との境に緩衝帯（バッファ

鳥獣被害対策

ゾーン)を設ける。また、野生動物が隠れやすい茂みを少なくするために、道路沿線の下草刈りを行っている。その他、ICT(情報通信技術)を活用した野生動物対策の事例なども参考に有害鳥獣対策を行っている。



横山 清彦 議員



イノシシの被害を受けた水田

貸工場内定企業の 整合性は

町長

リチウム電池にこだわらず
借り手を優先した

別業種になった理由
と町民工場見学は

【質問】 従来の構想とは異なる業種に内定した理由と、9月定例会で

約束した町民説明会と工場見学会の開催は？

町長 新型コロナや原油高騰等でセパレータデザイナー社の事業展開が進まなかったため、用途を限定せず応募した結果、三菱鉛筆さんに内定した。三菱さんも電池の研究開発をする予定。町民説明会、工場見学会は必ずやる。

義務教育学校の一体
の校舎の移行時は

【質問】 大きな関心は「一体型校舎建設」がいつになるのかである。

新たな学校の魅力で移住者を呼び込み、人口増加に繋がる特色ある学校を考えるべきだ。

【教育長】 校舎建設は財

源の問題で見通し立っていないが、可能な限り早く実現できるように計画を練る。分離型のメリットを活かし新しい学校の特色、飯豊らしい教育の構築に邁進したい。



しま ぬき ひさお
島貫寿雄 議員

人口減少の可能性に
変えるまちづくりは

【質問】 子ども議会は

成功だったが、未来を担う子ども達が将来、町に帰って来るような政策、町づくりは？ 今後は「人」にお金をかけ、事業にはスピード感を。新庁舎の建設予定は？

町長 将来の希望ある

町づくりは大切である。地域の大切さを子どもたちに学んでもらい、飯豊に帰って欲しい。新庁舎計画はない。

電池バレー関連事業を 総括・反省すべき

町長

今後とも事業の発展に
尽力したい

現実を直視して総
括と反省を

【質問】 私が10年ほど前

から反対した電池バレー事業は全てが予想どおり頓挫してしまっている。投資した40数億円は返らない。今後どのような失敗をしないために総括と反省が必要ではないか。

町長 40数億円は補助

金や企業版ふるさと納税等が入っており、全て借金ではない。途中山形大学の撤退等により、町民の皆様にご心配をかけたが専門職大・貸工場ともようや

く成果が出てきたもの
とと思っている。

電池の人材育成とし
て製品開発業務を行
う必要があったのか

【質問】 電池バレー関連

で既存企業の技術力向上にむけた製品開発業務委託3840万円は本当に行ったのか。委託した事業はどのようなメリットがあるのか。また、報告書はあるのか。

町長 国の地方創生交

付金を活用した事業や企業版ふるさと納税をいただいた事業である。しっかりとした報告書



まつ やま かずよし
松山和好 議員

専門職大学の学生
が卒業できるよう
指導すべき

【要望】 現在入学してい

る二人の学生が確実に卒業できるよう、大学側を指導すべきではないか。

町長 学校側は経営が

成り立つよう懸命に学生募集している。県も応援してくれており、町としてもしっかりと指導、サポートしていきたい。

景気・災害・まちづくり 町民との意見交換会・学校訪問

議会では、公聴活動として地域や団体との意見交換会を実施しています。本年度は町内団体に加え、町内の小中学校で子どもたちの意見等も聞きました。コロナウイルスや災害の影響で経済の落ち込みに対する支援、防災計画の見直し等の意見が数多く話題となりました。話し合われた課題や要望については、町の政策に反映するよう提案してまいります。

飯豊町商工会

10月31日

【テーマ】

町商工業の課題

3班に分かれ、商工業の課題や展望について話し合いました。

【商業・観光業】

コロナや災害によって大きな影響を受けた。人口が減少し顧客や旅行者が少なくなっており、抜本的な対応が必要。店もない町では誰も住まないの、町ぐるみで対応を。

【工業】

求人募集しても応募が少ない。常に求人情



町ぐるみの対応が必要

報を把握し、求職者に紹介する業務を町で行ってもらいたい。

【飲食業】

原油高騰の経費を価格に転嫁できない厳しい状況である。プレミアム商品券や飲食・小売店支援、地産地消の取り組みに支援してもらいたい。

黒沢地区

11月7日

【テーマ】

黒沢地区の防災計画について

【内容】

3班に分かれ、昨年の災害を教訓として地区の防災計画について意見交換を行いました。

【地域防災】

- 昨年の災害から指定された避難所が浸水し、役割を果たせなかった。
- ハザードマップの見直しが必要である。
- 緊急連絡網を整備する必要が有る。



地区の安心安全を守るため

○ 高齢者等避難困難者も多いため、その把握と日頃の声かけも大切

○ 地区民が参加する地区防災計画をつくる必要がある。

○ 地域防災の取り組みに対し、町や議会も応援してもらいたい。

町内小中学校訪問

【テーマ】

子ども議会に向けて

【内容】

11月30日に開催される子ども議会に向け、議員が各校に出向き議会の仕組みの他、町民の意見をまちづくりに反映するための手順なども説明しました。

各校では「子ども議会」での一般質問のテーマづくりに取り組ん

でいきました。人口減少や少子高齢化の現状を変えたいとする提案はじめ、町の未来の姿、地域の伝統行事を守ることなどの意見が出され、生徒児童の意気込みが感じられました。



寸劇で町の未来を訴える 第一小学校



町づくりについて話し合う 添川小学校

道路・農業・教育 各大会に参加

① 置賜地域道路整備促進大会



演題 「道路を取りまく最近の話題」
講師 国土交通省道路調査官
菅 太氏

- 各大会等が次の会場で催されました。
- ① 10月2日(月)
会場 高島町文化ホールまほら
 - ② 10月5日(木)
会場 小国町おぐに開発総合センター
 - ③ 10月17日(火)
会場 白鷹町パレス松風
 - ④ 10月20日(金)
会場 山形市国際交流プラザ
 - ⑤ 10月21日(土)
会場 新潟県関川村民会館アリーナ

③ 西置賜地区市町議会連絡協議会 定例総会議員交流会

この定例総会は、西置賜の1市3町で構成されています。第1回は長井市で昭和43年1月26日に開催され、以後毎年会場を各市町、順送りで開催されています。

広域協力によりそれぞれのまちづくりを進めるうえでの共通問題について、意志の疎通を図り相互の理解を深め共同の利益を推進することを目的としている協議会です。

② 置賜地方町村議会議長会 議員交流会



演題 「小国高校の価値とは」
講師 小国町教育委員会教育振興課
高橋 俊典氏

⑤ 新潟山形南部連絡道路 建設促進期成同盟会住民大会 関川大会



演題 「道路を取りまく最近の課題」
講師 国土交通省道路局企画課
道路経路調査室
室長 四童子 隆氏

④ 山形県議会議員 研修会



講演 「今後の日本農業の課題」
～食料・農業・農村基本法の改正～
講師 東京大学大学院農学生命科学研究科
鈴木 宜弘教授

手ノ子スキー場の運行再開される

総務文教常任委員会

各課からの報告

◆手ノ子スキー場の運行再開について

昨年、リフトの故障で営業できなかったが、修繕工事が完了し12月23日スキー場開きを行う。
(社会教育課)

◆森林環境税について

国内に住所のある個人に対して課税される国税で、令和5年の所得に基づいて課税される。
(税務会計課)

◆公共施設の電力契約の変更について

各小中学校、給食調理場、町民総合センターが対象。
(総務課)

◆飲酒運転撲滅運動・冬の交通安全県民運動について

令和5年12月11日～

各課からの報告

20日までの期間実施され、12月15日には町内飲食店・町内商店・金融機関防犯啓発活動を実施する。
(住民課)

◆令和6年度乳幼児施設・学童クラブ利用の申し込み状況について

園児入所希望(幼児・乳幼児) 156名・学童クラブ111名の申込みがある。
(教育総務課)



手ノ子スキー場 リフト修繕が完了

質問と答弁

●地区別計画は

高橋(勝)委員 地区別計画の推進・進捗についてまちづくりセンターの具体的な役割は。
企画課長 実施主体の地区協議会とまちづくりセンター職員で合同の会議を開催し、役割を明確にする。

●新電力契約の利点は

横山委員 電力契約変更に伴い役場庁舎も対象にしては。
総務課長 教育関係施設で220万円/年の削減は見込めるが、庁舎は試算見積りで効果がなかった。

●マイナンバーカード

菅野委員 マイナンバーカードの登録者状況と国民健康保険証の紐付けは。

●住民課長

登録状況は11月30日時点で88・4%となっている。国民健康保険証との紐付け登録者数は、10月16日時点で77・3%になっている。

●ほほえみカーは

屋嶋委員 ほほえみカーに10月から添乗員(ボランティア)の方が試験的に乗車されているが時間帯も考慮して取り組んでは。

●住民課長

ほほえみカーの利用者は、10月140人(内支援の必要な方が17人) 11月129人(内支援の必要な方が21人)だった。荷物のある方は大変助かることだったので、時間帯についても検討して取り組んでいく。

●視力低下に影響は

高橋(亨)委員 ギガスクール導入後タブレット端末の影響により、視力の低下が懸念されるがどの様な状況か。
教育総務課長 導入時に視力の低下も心配されたので学校も時間の制限など指導している。視力低下のデータがないので今後確認する。

●今後の米坂線は

島貫委員 JR米坂線の復旧に対し、町としての今後の取り組みは。
副町長 運行検討委員会が設置されたので町として早期復旧を求めたい。また、羽前椿駅までの延伸についても取り組んでいきたい。

災害復旧工事 降雪前に現地確認

12月13日(水) 小白川・高峰

産業厚生常任委員会

昨年の豪雨災害により被災した道路や河川・農地等以下の現地を確認した。



・農地等復旧(小白川2カ所)・芋はげ橋橋梁災害(小白川)・町道松原舟越線道路災害・災害関連緊急治山工事(高峰)・町道神倉線道路災害(高峰)・嬉ヶ沢河川護岸(高峰)

各課からの報告

◆今夏の酷暑が農作物へ与えた影響

水稲の作況は平年並みであるが1等米の比率は下がっている。そばは収量減で、2等品の割合が高い。大豆は小粒傾向であった。

(農林振興課)

◆プレミアム商品券発行事業

797世帯の応募があり、当選649世帯。使用期間は12月4日～令和6年2月18日まで。

(商工観光課)

◆新潟山形南部連絡道路アンケート調査

令和6年1月10日(水)まで行う。

回収箱を設置する。

①役場地域整備課

②あゝす

③めざみの里観光物産館

④町ホームページやQRコード(地域整備課)

◆非課税世帯物価高騰重点支援給付事業

支給は、1月中旬～下旬に該当者へ確認書を送付し、順次支給予定。

(健康福祉課)

質問と答弁

●来年の水稲作付をどのように取り組むか

遠藤(純)委員 今年は1等米比率が落ちていく状況にある。来年に向けての対策は。

農林振興課長 1等米の比率が昨年より大きく下がっている品種がある。土づくり、水管理、適期刈り取り等技術者会で暑さ対策を検討し、各農家に周知を図る。

●プレミアム付き商品券発行事業について

島貫委員 昨年、40%のプレミアム付きでも売れ残り、今年は20%のプレミアム付きで買えない状況については、観光交流室長 限られた財源で措置した。

副町長 町内購入率は15%で住民の方に町内の店をよく知ってもらいその率を上げたい。

(健康福祉課)

●インバウンド客は団体、個人両方か

松山委員 インバウンド客は団体客だけでなく、個人客なら中津川への誘客活動を行なっているのか?

観光交流室長 インバウンド客はすべて団体客である。個人の誘客方法としては、『じゃらん』のホームページに掲載している。

●9期の介護保険料について

菅野委員 今後において介護保険料は変わらないのか。下がる場合にはその要素として何があるか。

健康福祉課長 高齢者の健康づくり事業を行っていることもあり、介護サービスの利用者が減っている。今の見積もりでは下がる予定である。

(健康福祉課)

●福祉とまちづくりセンターとの連携を

遠藤(芳)委員 除雪・移動・買い物・見守り等の高齢者支援において、福祉部門とまちづくりセンターの連携が必要ではないか。

健康福祉課長 まちづくりセンターとの連携の必要性は十分認識している。今後の取り組みについて連携を模索していきたい。

●専門職大学の学生募集について

高橋(亨)委員 令和6年度の学生募集の状況は。

観光交流室長 教授陣が高校に出向いて募集を行っている。更に60校近くある高校推薦も受け入れていて、夏にはオープンキャンパスも行っている。

(健康福祉課)

11月30日(木) いいで子ども議会開催される

町制施行65周年記念事業

いいで子ども議会の目的

町制施行65周年を記念し、町内の小、中学生の児童生徒が子ども議員となり、その豊かな感性による意見、要望などを町政に反映させること、地域づくりに参加する気持ちを育てることを目的にしました。

いいで子ども議会の経過

- 6月23日(金) 議会・教育委員会・学校による第1回実行委員会
- 10月10日(火) 第二小学校 子ども議会説明会
- 10月11日(水) 飯豊中学校 子ども議会説明会
- 10月13日(金) 手ノ子小学校 子ども議会説明会
- 11月8日(水) 第一小学校 子ども議会説明会
- 11月16日(木) 添川小学校 子ども議会説明会
- 11月21日(火) 第2回実行委員会 子ども議員と初顔合せ、リハーサル

一般質問の内容

高橋 優希議員(飯豊中)

「飯豊町の自然を活用した観光事業について」

樋口 桃佳議員(第一小)

「町民の利便性の向上、町のPRを目的にした『特産物を使った朝市』の開催について」

鈴木 奏斗議員(第一小)

「学校の校舎をホテル、レストランに再利用することについて」

新沼 紬斗議員(第二小)

「災害につよい町づくり 防災無線の活用について」

安仲 翔議員(添川小)

「住みたくなる町、理想の町を考えて、高齢者にやさしい町づくり」

井上 歩武議員(手ノ子小)

「飯豊町をより他地域にPRし、経済的に豊かになるために『飯豊町版『黒獅子祭り競演会』の開催について」



若者に魅力あるまちづくりを提案

大河原 魁議員(手ノ子小)

「飯豊町をより活性化させ、人口減少に歯止めをかけるために『飯豊町版『黒獅子祭り競演会』の開催について」

堀江 笑永議員(第二小)

「子どもからお年寄りまでみんなが楽しく過ごせる町づくり」

横澤 蒼祐議員(添川小)

「住みたくなる町、理想の町を考えて、若者が活躍する町づくり」

高橋 瞭太議員(飯豊中)

「若者を惹きつける働く場作りについて」

*いいで子ども議会の特別号の発行を予定しています。

災害のないまちづくりを

4年ぶりの議員視察研修

目的：議会改革・移動支援・鉄道利用拡大

期日 令和5年

11月14日・15日

参加者

菅野富士雄議長

屋嶋 雅一副議長

高橋 亨一議員

舟山 政男議員

松山 和好議員

高橋 勝議員

遠藤 純雄議員

横山 清彦議員

蔵王町議会

村山 一夫議長

馬場 勝彦副議長

村上 一郎議員

三沢 茂議員

鈴木 賢議員

相原 宏美議長

事務局長補佐

石巻カーシェア協会

山下 知晃コミュニ

ティサポート員

のぞみ野カーシェア会

会員7名

三陸鉄道

石川 義晃社長

村上富男事業本部長

金野淳一運行本部長

議会改革

宮城県蔵王町議会

議会は、議会の監視機能のさらなる充実と強化を図り、議会が主導的・機能的に活動できるように、議会改革を進めている。

(通年議会、定例会後の議会報告会など)

通年議会のメリット・デメリットや議会報告会についての研修を行ってきた。



蔵王町議会との研修

移動支援

のぞみ野カーシェア会



のぞみ野カーシェア会との研修

コミュニティカーシェアリング協会

コミュニティカーシェアリングは、地域コミュニティで車をシェア(共同利用)し、地域で支え合いながら活動する取り組み。東日本大震災の後、石巻市の仮設住宅で寄付車を活用しての仕組みづくりが始まった、非営利組織。

協会では、導入サポート、運営サポート、地域連携のサポートなどがあ

る。利点は、気軽に誰でも始められることであるが、安定したサービスがむずかしいなどの課題がある。近年は移動に課題のある地域などに導入されるようになり、全国に広がっている。

鉄道利用拡大

三陸鉄道(宮古市)

平成23年の東日本大震災津波や令和元年の台風19号による大雨被害をも乗り越え、令和2年に三陸鉄道リアス線を全面運行再開した。現在は、様々なイベント列車や震災学習列車などの企画により、

利用拡大に努めている。また、復旧においては、県や沿線の市町村との上下分離方式を取り入れた。



三陸鉄道車両基地にて

2018年に設立し、お出かけツアー、外出支援、お茶っこ会などの活動をしている。日本カーシェアリング協会から車をレンタルし、ご近所同士で病院や買い物などの移動支援を行っている。しかし近年は、担い手不足に苦労している。特に運転手の高齢化による人材確保が難しい。

